



立上げ当初の「港小学区おやじの会」。校庭の南側にあるトイレの修理とペンキ塗りがスタートでした。



児童の見守りや、夜間の地域のパトロールに使用する青パト車両。昨年度日本財団の補助で購入しました。



地域交流会後の集合写真



港キッズクラブ現会長の杉浦幸信さんと、港小学区おやじの会に創成期から関わる神谷環光さん。



島田強さん。瑞宝双光章受章の報告に来庁の際の写真です。

「青パトもはじめはメンバーの自家用車を使っていました。今は、NPO法人南部まちづくり協議会で、町内会やほかの団体の方といっしょに登下校時のパトロールと、夜間のパトロールを行っています。」

「地域のおやじの会」って

「実は、すでに自分の子どもは大人になっているのに残って協力しているメンバーが多いんです。もう『地域のおとうさん』ですよ。港小学校の運動会ときは、ボランティアで駐車場の整理や誘導を手伝っています。不満を言われたりして、ちょっと残念だなと思う場面が最近でてきました。若い保護者の方、忙しいと思いますが、地域全体のなかでの自分の子どもや家族、という視点を持ってもらえたらと思います。」

「新しいメンバーを増やしたいなと思います。また『おやじの会』の事業に参加していた児童が、卒業してから遊びにきて手伝ってくれるのが本場にうれしい。そういう機会を今後もつくりたいと思います。」

伝え方で若い人も集まる

「おやじの会」の面々から「若手」と推される、港キッズクラブの会長杉浦幸信さん（二池町）は、「子どもの入学がきっかけで始めました。人と関わって何かするのが好きで、港キッズクラブも楽しんでやらせてもらっています。町内会やまちづくり協議会が地域のために実施する、つながり作りや、防災を考える場があるのはとてもいいことと思っています。今、そういう場に若い世代の参加が少ないことやイベントにも子どもだけ参加して企画側の大人が少ないという課題があります。例えば地域交流会なら『おもしろそう』、防災キャンプなら

『やった方がいい』というイメージをもっとうまく伝えられれば、参加しようと思う方が増えるんじゃないかと思っています。」と語ってくれました。

ふりかえったときに見守ってくれている存在の大切さ

「港小学区おやじの会」の立上げに協力した当時の校長・島田強さん（刈谷市在住）によると「平成12年の大阪の附属池田小学校事件のあと、校門に鍵をかけ関係者以外立ち入り禁止の看板を立てるような世のなかになっていました。しかし、本当の意味で子どもを守るには、どんなときも安心にすぎせ、のびのび成長できるまちにして、地域の皆で見守り育てなければ意味がないと思ったのがスタートです。『おやじの会』の立上げのときも、イベントを企画し、人手が必要だからといういろいろな

体の方に声をかけて顔をあわせる場をつくりました。携帯もあまり普及してなかったのに、連携がよく取れていましたよ。今も続けてくれていることに感謝します。有名な児童精神科医の佐々木正美氏は『ふりかえったときに見守ってくれている人がいる』この大切さを説いています（著書『子育てのきほん』）。地元の『おやじ』たちがそういう存在のひとつであってほしいという願いです。」

島田さんは、港小学校はじめる永年の教育現場での功績により、令和元年春の叙勲で瑞宝双光章を授与されました。

今では翼小学校区には「飛翔（つばさ）の会」があり、高取小学校区には「鷹取の会」がうまれました。市内で一番小さな小学校で始まった活動はまちにすっかり根差しています。